

営業余剰の簡易推計について

第29回国民経済計算体系的整備部会

令和3年9月24日

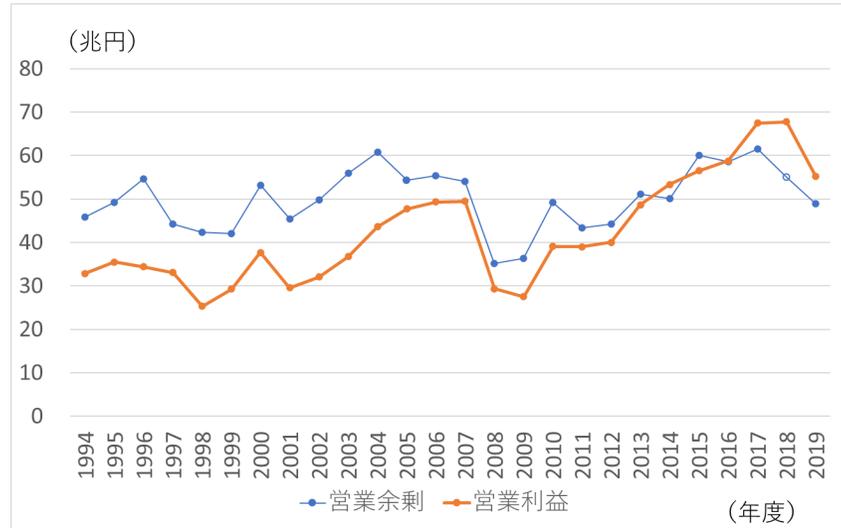
国民経済計算体系的整備部会 臨時委員
山澤 成康

法人企業統計から営業余剰への変換

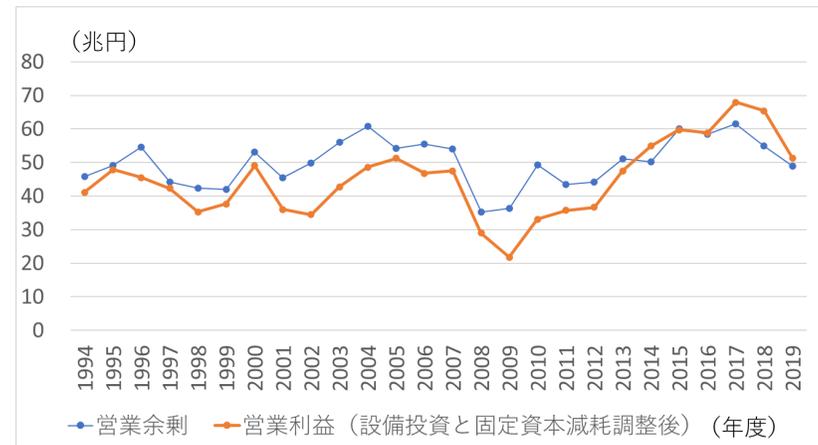
番号	調整要因	説明
1	設備投資の概念差 (+) (SNA設備投資-法人企業統計設備投資)	SNAが定義する設備投資の一部は、法人企業統計では費用とされる、営業余剰変換へのプラス要因となる。
2	固定資本減耗の概念差 (-) (SNA固定資本減耗-法人企業統計減価償却費)	SNAが定義する固定資本減耗の方が、法人企業統計の減価償却費より大きい。
3	在外支店の営業利益 (-)	「国内」概念の営業余剰では、在外支店の営業利益は含まない。
4	純粹持ち株会社の営業利益 (-)	SNAでは、純粹持ち株会社の営業利益は財産所得となる。
5	在庫品評価調整額 (-)	SNAでは在庫品評価調整額は含まれない。
6	FISIM (中間消費分) (-)	SNAではFISIM部分は含まれない。

営業利益の調整（民間非金融法人）

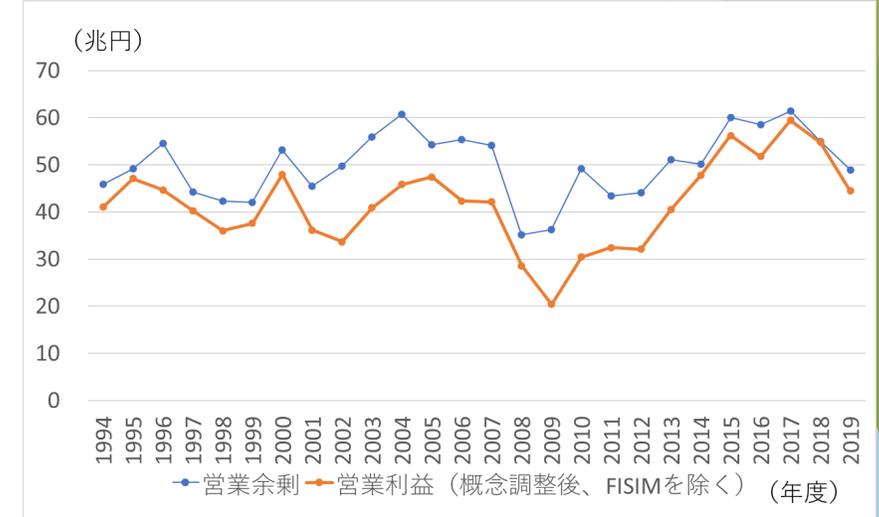
(1) 調整なし



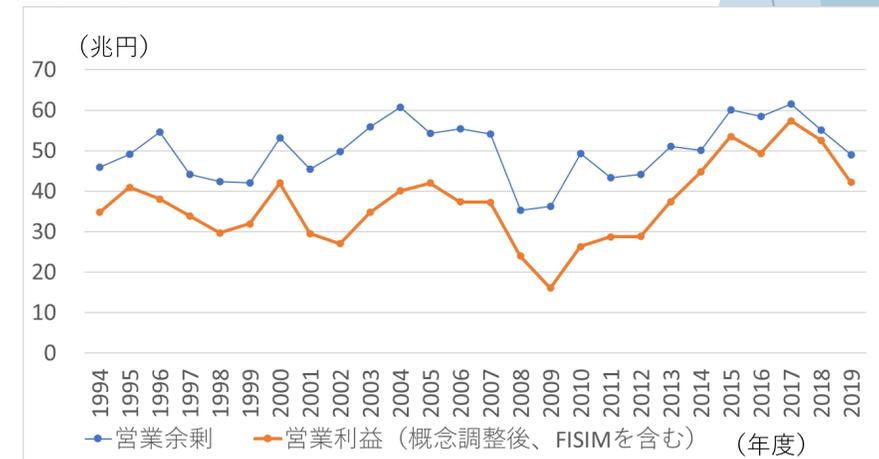
(2) 設備投資と固定資本減耗



(3) (2) + 在外支店、純粹持ち株会社、在庫品評価調整



(4) (3) + FISIM



営業余剰の推定（水準）

被説明変数：営業余剰

変数	式1	式2	式3	式4
α 定数項	32.374 ***	26.476 ***	23.183 ***	28.213 ***
営業利益	0.4176 ***			
β 営業利益（設備投資、固定資本減耗）		0.5241 ***		
営業利益（FISIM以外調整）			0.6446 ***	
営業利益（FISIM調整後）				0.5903 ***
自由度修正済み決定係数	0.4902	0.651	0.6637	0.6378
ダービンワトソン比	1.0976	1.3858	1.3662	1.332
ワルドテスト（F値） $\alpha=0, \beta=1$	54.86 ***	38.872 ***	23.183 ***	132.89 ***

（注）推計期間は1994年度から2019年度。***は1%、**は5%、*は10%水準でそれぞれ有意であることを表す。

営業余剰の推定（対数階差）

被説明変数：営業余剰（対数階差）

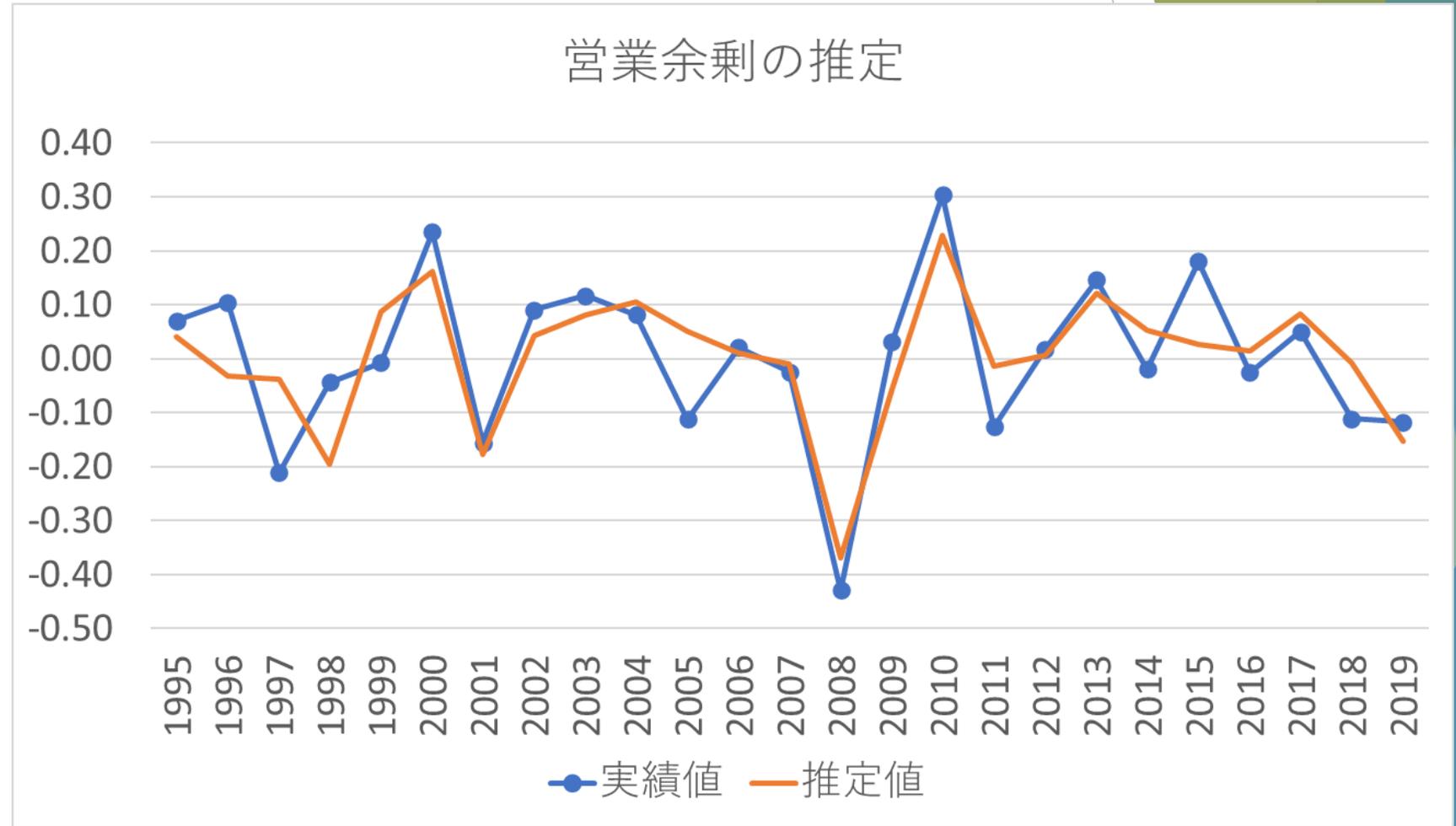
変数	式1	式2	式3	式4
α 定数項	-0.011574	-0.002516	0.000681	-0.001291
営業利益（対数階差）	0.684974 ***			
営業利益（設備投資、固定資本減耗調整、対数階差）		0.576684 ***		
β 営業利益（FISIM以外調整、対数階差）			0.602555 ***	
営業利益（FISIM調整後、対数階差）				0.506418 ***
自由度修正済み決定係数	0.644796	0.570724	0.542013	0.52669
ダービンワトソン比	2.890971	2.766736	2.737246	2.731861
ワルドテスト（F値）	5.206742 **	8.91507 ***	6.396674 ***	13.18932 ***
$\alpha=0, \beta=1$				

（注）推計期間は1994年度から2019年度。***は1%、**は5%、*は10%水準でそれぞれ有意であることを表す。

営業余剰の推定

営業余剰の推定
(対数階差)の式
1による推定。

被説明変数：営業
余剰、説明変数：
営業利益でそれぞ
れ対数階差をとっ
たもの。
推定期間は、1995
年度から2019年度。



まとめ

- ▶ 営業利益から営業余剰への水準での調整は難しい。設備投資の概念差などの調整などに誤差が含まれている可能性がある。
- ▶ しかし、営業利益の伸び率を使った推計で、ある程度の精度は確保できるのではないか。

(参考文献)

山澤成康 (2021) 「営業余剰の簡易推計」 『跡見学園女子大学マネジメント学部紀要』 第32号 (2021年7月25日)